

# 1 地域コミュニティワークショップ実施報告

## ■実施概要

日 時:平成28年2月20日(土)13時00分～16時00分

場 所:さっぽろテレビ塔2階ホール(しらかば・あかしあ)

参加者:市内町内会関係者31人出席(男性23人、女性8人)

内 容:以下のプログラムで実施した。

13:00	開会
13:05	情報提供①(20分) 「札幌市のコミュニティの現状」について
13:25	ワークショップ①『地域課題に対応するために必要な取組』(50分)
14:15	休憩(5分)
14:20	情報提供②(15分) 「札幌市や他都市の取組」について
14:35	ワークショップ②『実現のために必要なこと』(55分)
15:30	グループごとのまとめ(20分)
15:50	本日のまとめ(10分)
16:00	閉会

## ■実施状況(写真)



## ■ワークショップで出された意見概要(論点)

項目	地域課題に向けた取組に対して必要なこと
参加しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■参加のきっかけ</li> <li>・町内会活動を知ってもらうツール(会報・チラシ等)やその周知方法</li> <li>・町内会加入特典(利用料無料など)・メリット</li> <li>■参加しやすい仕組み</li> <li>・学生マッチングバンクや町内会応援隊などの活用</li> <li>・地域ニーズの把握</li> <li>■参加促進の啓発PR</li> <li>・町内会のメリットや意義、安心感のPR</li> </ul>
ノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■活動のノウハウ</li> <li>・IT活用のための知識やノウハウ</li> <li>・ノウハウを持った専門性のある人材の育成</li> <li>・相談できる窓口やサポートの体制(地域の負担軽減)</li> <li>■情報共有</li> <li>・町内会同士の取組に関する情報共有</li> <li>・専門性を持った様々な団体(子ども見守りなど)の情報共有</li> <li>・町内会の運営や意識、対応のノウハウ(個人情報への対応等)</li> </ul>
活動の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>■場に関わる財源</li> <li>・地域活動の場整備事業等の活用</li> <li>■場に関わる連携</li> <li>・地域の団体が話し合う場(町内会・学校・警察など)</li> <li>・子どもが集まれる場や地域活動の場</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>■活動主体同士の連携</li> <li>・関係機関の連携(連町、単町、NPO、学校、企業、その他団体)</li> <li>・まちづくりセンターやまちづくり協議会の強化</li> <li>■他地域・町内会同士の連携</li> <li>・地域をつなぐコーディネータ(NPOなど)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■活動に関わる財源</li> <li>・HP作成やメンテナンスを行う財源</li> <li>・住民組織助成金の金額アップ</li> <li>・企業からの協賛</li> </ul>

2 地域コミュニティワークショップでの意見(詳細)

		単位町内会が取り組むこと	連合町内会が取り組むこと	他の主体と連携して取り組むこと	他の主体が取り組むこと	その他の意見
高齢化・単身高齢世帯の増加	必要な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日頃からの見守り・安否確認                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りの担当者を決める</li> </ul> </li> <li>○家庭訪問                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問したら手紙入れる</li> </ul> </li> <li>○電話かけ</li> <li>○単身高齢者マップ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランクに分けて高齢者の情報を集める</li> </ul> </li> <li>○顔の見える関係・地域とのつながりづくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動</li> </ul> </li> <li>○敬老の日プレゼント</li> <li>○交流の機会の創出                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会や日中一人で過ごす高齢者への対応)</li> </ul> </li> <li>○空き家の除雪</li> <li>○ひきこもり高齢者へのアプローチ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に手紙を投函</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見守りの方針づくり</li> <li>○ふれあい昼食会</li> <li>○福まちマップの作成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上や75歳以上の高齢者を把握</li> </ul> </li> <li>○電話かけ</li> <li>○チラシの配布による情報発信</li> <li>○不自由な高齢者が対象の避難訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会福祉協議会との連携</li> <li>○福祉のまち推進委員との連携</li> <li>○地域包括支援センターとの連携</li> <li>○民生委員との連携</li> <li>○個人情報を連携して管理提供                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族名簿</li> </ul> </li> <li>○福祉マップ作成(継続・更新が必要、単町の活動に活かすことが大事)</li> <li>○企業との連携の協定(トドック)</li> <li>○高齢者の交流の機会の創出                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者サロン</li> <li>・すこやかクラブ</li> </ul> </li> <li>○高齢者の学習機会(出張出前講義の活用)</li> <li>○高齢者の活躍の場づくり(交通安全の活動を行うなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者施設への転入による空き家対策</li> <li>○人数によって助成金が変わる</li> <li>○自分から発信できる仕組み</li> <li>○福祉除雪での見守り</li> <li>○空き家の対応</li> <li>○自分からの発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思表示などができるサイン</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りが監視にならないよう気をつける。</li> <li>・見守り活動には女性の活用が重要</li> <li>・町内会にはきめ細かな情報がとれる</li> <li>・他団体と連携することで見守り推進員も見つかりやすい</li> <li>・行政に詳しい人間が取り組めるほうが良い。</li> <li>・連町と単町が同じことに取り組んでいる</li> <li>→もっと特色を活かして行うべき</li> <li>・町内会で出来ることは町内会でを行い、どうしてもできないことは市と相談する</li> </ul>
	実現のために必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見守りなどを行う人材の確保</li> <li>○地域ニーズ把握のための支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートや住民との交流会</li> <li>・NPOと連携など</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町内会資料の各戸配布(町内会作成の資料についても、各戸配布が必要な場合は、行政に配布してほしい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町内会役員に民生委員を入れる</li> <li>○企業との連携の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域活動の場整備支援事業の周知</li> </ul>	
子ども・子育て環境に対する不安	必要な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域のママさんとの関係づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと遊ぶイベント</li> <li>・親子参加の消防クラブ</li> </ul> </li> <li>○町内会から子どもの卒業・入学祝いを渡す</li> <li>○子ども会を組織化する</li> <li>○お祭りの充実(お祭りは子どもとその親の町内会参加のきっかけづくりになる)</li> <li>→重点的に広報を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA学校と連携する(「子どもを守る会」をつくる)</li> <li>○子ども会の運営</li> <li>○パトロール                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者対策への巡回</li> <li>・警備会社と連携)</li> </ul> </li> <li>○子ども110番の家</li> <li>○お祭り</li> <li>○3世代交流の場の創出</li> <li>○小学生によるイベントの自主運営</li> <li>○挨拶運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の見守り体制(スクールガード)</li> <li>○中学・高校生のボランティアの活用</li> <li>○地域の美化活動</li> <li>○学校バザーに町内会で出店</li> <li>○おやじの会の活動の活発化</li> <li>○地域の美化活動</li> <li>○横の連携の強化(学校・児童会館・町内会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童会館のバックアップが必要(児童会館は地域の子どもの見守り体制が出来ている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの取組は町内会の範疇を超えているため、町内会では難しいのではないかと。</li> <li>・子どもから親へ伝えることが必要</li> <li>・地域で見守る体制が重要(地域で顔の見える関係づくり)</li> </ul>
	実現のために必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てサロン</li> <li>○ママの居場所づくり</li> <li>○子どもが参加できるイベント・行事の充実(もちつき大会、ラジオ体操、運動会、ミニオリンピック)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お祭りの寄付集め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもを見守る団体などの情報の提供</li> <li>○連町の関係機関との連携の必要性(今は関係機関がバラバラ活動している)</li> <li>○地域活動の場整備</li> <li>○子どもの集まれる場の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校との交流</li> <li>○PTA会長や学校への働きかけ</li> <li>○警察・学校・市・町内会で話し合いをする機会</li> </ul>	

2 地域コミュニティワークショップでの意見(詳細)

		単位町内会が取り組むこと	連合町内会が取り組むこと	他の主体と連携して取り組むこと	他の主体が取り組むこと	その他の意見
災害対策の必要性の高まり	必要な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難のための備品の確保(椅子・担架)</li> <li>○支援が必要な人と支援する人のマッチングの仕組み(誰が誰に声をかけるか決めるなど)</li> <li>○マニュアル作り</li> <li>○道路や建物などの危険個所の把握</li> <li>○避難指定場所に関わらない逃げ場の確保</li> <li>○防災訓練(地震・火事の対策)(特に冬季の想定が重要)</li> <li>○手助けが必要な人を色分けしたマップの作製</li> <li>○訓練の参加率の向上</li> <li>○災害時対応のお知らせを配布(避難場所の周知)</li> <li>○防災意識の高揚(普及・啓発)</li> <li>○子どもの頃からの意識啓発・紙芝居の作成など</li> <li>○少年消防クラブが防災の先生に</li> <li>○自主防災のための係を決める</li> <li>○災害時用の名簿作成・住民票をもらい把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単町の防災体制の一律化</li> <li>○個人情報ルールづくり</li> <li>○避難訓練・DIG・HUG</li> <li>○救護タンカの練習</li> <li>○災害時の情報提供</li> <li>○名簿の把握</li> <li>○家族で避難場所を決めるルールづくり</li> <li>○お知らせをつくる</li> <li>○冬期の災害対策</li> <li>○災害対策が得意な町内会と一緒に実施する</li> <li>○大人も子どもと一緒に参加して学ぶ機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マンションの管理会社の把握と災害時の対応の把握</li> <li>○病院と連携</li> <li>○専門の人に委託</li> <li>○自衛隊と連携</li> <li>○赤十字と連携</li> <li>○企業に対する働きかけ・重機の提供・食品の提供・連町とホームセンターで協定を結んで避難場所に</li> <li>○避難場所の確保(学校に避難出来るような連携)</li> <li>○防災衛生部の組織化</li> <li>○子ども達にも参加してもらおうプログラム(イザ!カエルキャラバン:防災を学ぶ子ども向けプログラム。学びながらカエルポイントでおもちゃと交換)</li> <li>○中学生との避難訓練</li> <li>○消防署からの講師によるレクチャー</li> <li>○マンションとの名簿マップの共有</li> <li>○避難場所が開いていない場合の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人による備品の調達</li> <li>○市民の災害意識の向上のための啓発</li> <li>○物資の確保</li> <li>○活動のための財源の提供</li> <li>○活動のための場の提供</li> <li>○場のための財源の提供</li> <li>○緊急車両が通れる道幅の確保</li> <li>○冬期の災害に備えた除雪の充実</li> <li>○ハザードマップを強制的に各町内会に送る。(現状ではわざわざ取りに行かないと手に入らない。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“防災をやりましょう”と言われてもどこまでやればいいのかわからない。</li> <li>・近所の企業(スーパーなど)が協力してくれない</li> <li>・デイサービスでは見守りなど出ている</li> <li>・これから町内会での取組がさらに必要</li> <li>・町内会で対策本部は難しいのではないか</li> <li>・安全管理のために町内会に加入してほしい</li> <li>・使えない物品の支給ではなく、使える物品を提供してほしい。</li> <li>・私立の学校との連携が難しい</li> <li>・町内会の意向をまちづくりに反映してほしい(道路幅、建物の建設など)</li> <li>・具体的に取り組むべきことを市より提示してほしい</li> </ul>
	実現のために必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人情報の管理・更新の人手や手間への対応</li> <li>○個人情報の管理する担当を決める(会長など)</li> <li>→個人情報取り扱いについてのルールなどがあるとよい</li> <li>○防災の体制づくりの必要性を伝える</li> <li>○地域の災害への危機感から意識を高めていく取組が必要</li> <li>○アドバイザー派遣の制度の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災の備品の提供</li> <li>・冬の防災の暖房器具</li> <li>・冬用の寝袋、段ボールベットの備蓄</li> <li>○NPOとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指定した企業から災害時に備品と食品を提供してもらう仕組みづくり</li> <li>○マップづくりの支援</li> <li>○DIGのノウハウを伝える</li> <li>○体験できるプログラムの提供</li> <li>○参加率の向上</li> <li>・炊き出し訓練</li> <li>・お弁当の支給</li> <li>○地域を超えた町内会同士の交流会</li> <li>○NPOとの連携</li> <li>○学校・行政の中での取り決め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相談できる窓口が必要</li> </ul>	

2 地域コミュニティワークショップでの意見(詳細)

		単位町内会が取り組むこと	連合町内会が取り組むこと	他の主体と連携して取り組むこと	他の主体が取り組むこと	その他の意見
地域活動の担い手の不足	必要な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民のニーズ把握 (住民が町内会に取組んでほしいことの把握)</li> <li>○運営方法の再検討</li> <li>○地域活動に関する研修</li> <li>○回覧板の内容のスリム化</li> <li>○班長を担い手に</li> <li>○役員を若い世代にする取組</li> <li>○小さいエリアに区切った活動</li> <li>○声かけ・ロコミ・各戸訪問による加入促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○退職者への説明会 (単町からの働きかけも必要)</li> <li>○個人情報などの守秘義務への対応</li> <li>○町内会同士が情報交換の場づくり</li> <li>○情報発信の方法やツールの提供</li> <li>○地域の活動報告 (学生や多団体とも連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政の退職者の町内会加入の推進</li> <li>○大学・学生と連携</li> <li>○病院との連携</li> <li>○メディアとの連携(新聞社など)</li> <li>○企業と連携</li> <li>○企業の施設の活用(会議室)</li> <li>○地域の団体・組織との連携の強化・役割分担</li> <li>○マンションへの情報発信 (マンションは特に回覧板の周りが遅いため、掲示版のほうが効果的)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちづくりセンターの所長を市民が引き受ける</li> <li>○市からの助成金の増加 (180円/人→300円/人)</li> <li>○学生主体のお祭り</li> <li>○企業からの協賛</li> <li>○町内会の広報誌作成</li> <li>○「まちづくりのレシピ」を非加入者に配る</li> <li>○町内会加入特典(無料入館)</li> <li>○市民に対する町内会の啓発</li> <li>○若者に町内会の魅力を伝える広報</li> <li>○加入・非加入に関わらない費用徴収(ごみ・排雪)</li> <li>○「町内会活動のヒント」の簡易版の配布</li> <li>○さぽーとほっと基金の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が連合町内会に仕事を振り分けてきているからこそ、行政の退職者は町内会に加入すべき</li> <li>・単町の規模が大きいと、600人くらいがマンション入居者であり、加入促進が大変である。</li> <li>・町内会の総会を考えていかないといけない</li> <li>・若い働いている世代の参加が課題</li> <li>・若い世代の参加は、会議の時間を参加しやすい時間に調整など運営方法の改善が必要</li> <li>・女性の方が人とつながりやすいため女性のネットワークを活用することも重要</li> </ul>
	実現のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イベントを通じた情報発信(町内会活動を知ってもらい関わってもらう)</li> <li>○町内会長への報酬制度、感謝を示す</li> <li>○町内会で収益を上げる取組</li> <li>○役員の交代制(固定化を防ぐ)→役員経験者がサポートできる体制に</li> <li>○古いマンションへの対策</li> <li>○町内会活動のアピール・見える化(既存の広報では地味な印象) <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を会館の壁に貼って紹介(ポスターなど)</li> <li>・町内会とわかるためのツールづくり→ボランティア組織の安心感につながる(エプロンなど)</li> </ul> </li> <li>○活動の参加率の向上(景品・食事とセット)</li> <li>○子どものいる親を役員にする(学校から子どもに情報が入るため)</li> <li>○若い世代の参加促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人にも還元できる仕組み</li> <li>・若者向けの企画(ボーリング等)</li> <li>・若い人が企画を選べる</li> <li>・上の世代から知恵を引き出す機会(料理など)</li> </ul> </li> <li>○単町と連町のつながりづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・連町からの単町への報告が必要</li> <li>・連町に入るメリットの周知</li> <li>・アドバイスできる関係づくり</li> <li>・事例などの情報の共有)</li> </ul> </li> <li>○町内会のPR <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会と警察の連携による安心感のPR</li> <li>・町内会館の無料利用の紹介(町内会加入のメリットのPR)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連町の負担軽減、連町をサポートするしくみ(NPO、専門性)</li> <li>○情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市HP内の連町HPの充実→HP作成やメンテナンスなどを行う財源が必要</li> </ul> </li> <li>○IT活用の知識やノウハウ、環境の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域をつなぐためのコーディネータのNPO</li> <li>○ノウハウを持った専門性のある人材の育成</li> <li>○まちづくりセンターの強化</li> <li>○まちづくり協議会の強化</li> <li>○情報発信や啓発</li> <li>○学生・大学と連携の推進</li> <li>○学校から町内会の重要性についてPR</li> <li>○学校の校長にアプローチ</li> <li>○市から企業に呼びかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会の会員みんなで運営していく意識が必要</li> <li>・地域での課題、困っていることをオープンに伝えることが大事</li> <li>・市民意識の向上は学校教育が重要</li> </ul>	